一般番組

Ⅰ．番組開発

番組開発の最大の目的は，新たな視聴者層の開拓につながる番組のジャンル・方法論の開発にある。そのために制作局各部の多様な専門性を結集して横断的に「異種」の才能が刺激しあうことから新鮮なコンテンツを生み出そうとしてきた。その成果として07年度に特集番組として制作した『東京カワイイ★TV』と『カンゴロンゴ』の2番組がレギュラー化された。そのほかにもさまざまな特色ある開発番組を制作。タモリが古地図を片手に東京の町をそぞろ歩きする『ブラタモリ』，1組のお笑い芸人のコントのみで構成する『笑・神・降・臨』は09年度の定時化が実現した。ほかに，バブル崩壊で人生の辛酸をなめた人物の再生の軌跡を追ったドキュメント『不屈の者たちへ』や，世の中の事象の“始まり”を探る教養バラエティー『そもそも』なども制作した。

Ⅱ．情報番組

1．経済・社会情報番組

経済・社会情報番組部は，08年度も，激動する時代と人に向き合い，タイムリーな番組を放送し続けてきた。

08年度は『クローズアップ現代』『プロフェッショナル　仕事の流儀』『家計診断　おすすめ悠々ライフ』『経済最前線』『経済羅針盤』『出社が楽しい経済学』（以上，他部局との共管番組含む）の計6番組を定時番組として担当した。

また，『NHKスペシャル』『プレミアム10』『ドキュメント　にっぽんの現場』をはじめとする特集番組も多数制作した。

（1）定時番組

『クローズアップ現代』は，「“いま”を切り取り“時代”を見つめる」を基本精神として16年目を迎えた。中国四川大地震，岩手宮城地震などの災害や世界金融危機など，劇的に変わり続ける国際経済の課題に迅速に対応した。また，非正規社員のうつ，貧困ビジネスなど，深刻化する“格差”の実態や，医療，年金，介護など，危機に瀕（ひん）した日本の社会保障制度の現状を探った。さらに，全国を席巻（けん）する奇妙な人気キャラクター“ゆるキャラ”や，演歌の逆襲ともいえる音楽業界の現象なども取り上げ，ブームの深層に迫った。

『プロフェッショナル　仕事の流儀』は，あらゆる分野で活躍する一流の“プロ”の仕事を徹底的に掘り下げるドキュメンタリー番組である。08年度は，看護師，騎手，マグロ仲買人，弁護士，落語家，ホームレス支援など，さまざまなプロフェッショナルを通して，“仕事”の奥深さと，働くことの醍醐（だいご）味を伝えてきた。

『家計診断　おすすめ悠々ライフ』は，年金，医療費，消費者トラブル，金融商品など，日々の暮らしに役立つ実践的な情報をわかりやすくていねいに伝えた。また，世界的な金融危機の中で，暮らしと家計を守るための知恵とくふうを丹念に紹介した。

『経済最前線』はビジネスマン向けのデイリー経済情報番組として定着。働く女性の姿を見つめた「ワーキングウーマン」「不況と闘う中小企業」などをシリーズで放送した。経済界トップのインタビュー番組『経済羅針盤』とともに，経済の話題を深くコンパクトに伝えた。

『出社が楽しい経済学』は，サラリーマンや学生をターゲットに，経済学の「基本の基」を取り上げた。一見難しそうな「価格差別」「比較優位」といった経済用語を，ドラマを交えたユニークな演出でわかりやすく解説した。

（2）特集番組

経済・社会情報番組部では，ジャーナリスティックな切り口で，多彩な特集番組を制作してきた。

08年度は『NHKスペシャル』11本の制作にかかわったほか，『ドキュメント　にっぽんの現場』『プレミアム10』『ハイビジョンスペシャル』なども制作した。『NHKスペシャル』の「借金地獄から救い出せ～自治体vs闇金融」は，深刻化するヤミ金融の暗躍と手口の実態を通して，多重債務問題の実態を掘り起こした。「リストラの果てに～日雇いに流れ込む人々」では，未曽有の不況下で日雇いの仕事を求める，“派遣切り”された非正規社員や解雇された中高年を追った。「うつ病治療　常識が変わる」では，国内で100万人を超えたうつ病の現実と，治療の最前線を伝えた。

定時番組からの特集展開としては，『プロフェッショナル　仕事の流儀』で，将棋名人戦の緊迫の攻防を描いた「ライバルスペシャル　最強の二人，宿命の対決　名人戦」，北京五輪直後の「攻めの泳ぎが，世界を制した～競泳コーチ・平井伯昌」，そして長期密着取材の「スペシャル～宮崎駿のすべて～“ポニョ”密着300日」などを放送した。

2．生活・食料番組

生活・食料番組は，現代社会のさまざまなテーマを「生活者の視点」から見つめ，視聴者の関心や疑問に答える情報番組やドキュメンタリーを制作している。

08年度は，朝のデイリー番組『生活ほっとモーニング』，金曜夜と日曜午前の『難問解決！ご近所の底力』，月～木曜昼の『生中継　ふるさと一番！』，日曜朝の『産地発！たべもの一直線』の4番組を定時番組として担当した。

（1）定時番組

『生活ほっとモーニング』は，食・健康・医療・福祉などのテーマを日常的に取り上げ，視聴者のニーズに応えながら，社会的事件・災害や事故にも迅速かつ機動的に対応する生活情報番組として定着している。08年度は，環境をテーマにした北海道キャラバンを7月に実施。クイズや旅企画を通じて貴重な大自然や環境を守る取り組みについて伝え，津波災害から15年を経た奥尻島の現状をリポートした。また，「“もったいない”が食卓を変える」「揺れる老後の安心」など，食料や社会保障に関するテーマをシリーズで編成し，日常生活を脅かす身近な問題について考え，人々の暮らしの一助となる情報を発信した。

また，第一線で活躍する著名人の素顔をインタビューで探る「この人にトキメキっ！」，暮らしに役立つ情報をクイズ形式でひも解く「クイズdeなっとく！」，観光地の新たな魅力に迫る「発見！とっておきの旅」なども，視聴者の好評を得た。

『難問解決！ご近所の底力』は，身近で切実な地域の問題を，町の人が力を合わせながら解決していく視聴者参加型番組。08年度は，関東甲信越では金曜夜に，全国放送では日曜午前に，月2回放送した。「育児に悩む母親」「認知症のはいかい」「ひょう害りんご農家を救え」「猫トラブル」など，地域の悩ましい問題と解決に結び付ける妙案を提示し，地域の力で問題解決を図るためのムーブメントを全国各地で起こした。

『生中継　ふるさと一番！』は，地域局と連携して，生中継で全国各地のとっておきの暮らしの現場を訪ねる昼の番組。豊かな大自然の風景や，海の幸山の幸，地域の人たちの元気いっぱいの笑顔などを臨場感たっぷりに伝え，バラエティーに富んだ地域の魅力を映し出した。

『産地発！たべもの一直線』は，全国各地の食料生産に携わる人々の努力や技術，生産者の哲学を地域局と連携して紹介。生産者自身をスタジオに招いて，話を掘り下げ，消費者の「食への関心」に応えた。また，ふるさと通信員がビデオリポートする「産地発！とっておきの味」では，郷土料理などを通じて，豊かな地域の食文化を紹介した。

（2）特集番組

『NHKスペシャル』は，世界を舞台に食糧確保の構造的問題点を明らかにした「世界同時食糧危機」，医療や介護の現場の切実な問題点と最新情報を伝えた「医療再建　医師の偏在　どう解決するか」「闘うリハビリⅡ　寄せられた声をたずねて」を制作した。

『ドキュメント　にっぽんの現場』では，粘り強く若者たちの更生支援を試みる人の姿を追った「君を信じて俺は待つ～暴走族脱退ボランティア」，夜間中学を舞台に生徒達のさまざまな境遇と人間模様を描いた「もういちど　まなびたい～札幌遠友塾・じっくりクラス」を放送した。

このほか，環境テレソンの中でCO_2削減チェッカーを提唱した『SAVE THE FUTURE プロローグ』，複数のディレクターによる新たなドキュメンタリー企画『多元ドキュメント　新宿・歌舞伎町の夜と昼』，地域局と連携した『地域発！どうする日本～危機の自治体』など，キャンペーン関連や新たな演出に挑戦する特集番組も制作した。

食料プロジェクト関連の『ふるさとの食　にっぽんの食～たべもの名人に会える旅』では，強い信念と哲学で生産を行う農業者を紹介。『すべては小さな芽から～第38回日本農業賞』では，受賞者の取り組みから，日本農業が進む道筋を探った。

3．科学・環境番組

科学・環境番組は，地球環境問題をテーマに多くの特集番組や定時番組を制作した。また，「科学」「医学」「生活科学」「自然・環境」の4つの分野を基本として，複雑化，細分化していく各分野の最新情報をわかりやすく伝えた。世界の動きを視野に入れながら，「国際的に通用する競争力の高いコンテンツ」をキャッチフレーズに，定時番組・特集番組が有益な情報と深い感動を与える番組となるよう意欲的に取り組んだ。

（1）定時番組

総合テレビの『ためしてガッテン』は生活科学番組として高い支持を受けている。『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』は親子で楽しめる自然番組として人気。人体の疑問を解き明かす『解体

新ショー』も好評である。教育テレビの『サイエンスZERO』は，タイムリーなテーマを掘り下げ，わかりやすい科学情報として視聴者に提供した。

①総合テレビ

『ためしてガッテン』では「難聴」「甲状腺」「がん」「腎臓病」「口内炎」「慢性痛」など，最新の医学情報をわかりやすく伝えるとともに「スロー筋トレ」「低カロリーダイエット」など健康情報を紹介し，視聴者のニーズに応えた。また，イカ，サバ，ゆず，大根おろしなど，おなじみの食材を紀行的な要素も加えて楽しく紹介した。『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』では，スズメバチと戦うタカ，オオアルマジロ，シーラカンスなど世界初の映像から，トビウオ，キタキツネ，リスなど身近な生き物の生態まで，自然の知られざる物語を伝えた。

『解体新ショー』では「なぜムセてしまうの？」「走るとお腹が痛くなるのはなぜ？」などの人体に関する素朴な疑問を取り上げ，スタジオトークで楽しく興味を深めながら，最新科学によってわかりやすく解明した。

『地球エコ2008　アース　ウォッチャー　月から見た地球』では，世界で活躍するアーティストが，月探査機“かぐや”の撮影する地球のハイビジョン映像とのコラボレーションを行い，地球環境の未来について考えた。

②教育テレビ

最先端の科学情報番組『サイエンスZERO』では「アルツハイマー病」「新型インフルエンザ」「疲労」などの最新の医療情報や，「知られざる太陽」「小型衛星」などの宇宙科学，「減らせ！エネルギーロス」「よみがえる　三宅島の自然」などの環境問題を取り上げた。さらに，６回シリーズでヒトの謎に迫るなど，幅広い分野の科学情報を放送した。

（２）特集番組

『NHKスペシャル』やロボコンなどで存在感のある特集番組を制作した。特に，洞爺湖サミットの開催などと連動して環境問題にかかわる番組に力を入れた。

『NHKスペシャル』の「北極大変動」（２本シリーズ）では，地球温暖化によって北極海で急速に進行する海氷の縮小が生態系に及ぼす深刻な影響を描くとともに，温暖化をきっかけに始まった北極海での資源開発競争に迫った。この番組は，国際共同制作で世界に配信した。

「低炭素社会に踏み出せるか」では，ヨーロッパがリードする「低炭素社会」に向けた新たな潮流を受け，脱温暖化の新たな社会・経済システムを日本がどう構築していくべきか展望した。

海の日特集『魚が消える？』では海洋資源や地球環境の大切さを伝えた。

夏の特集『ちょっと変だぞ日本の自然』『地球エコ　スバルバル号　北極海を行く』では，世界中で連鎖的に進行する環境異変の脅威にわかりやすく迫った。

また，日本の月探査機“かぐや”の観測結果とNHKのハイビジョンカメラでの鮮明な月面映像で『NHKスペシャル』「月と地球　46億年の物語」を国際共同制作した。

ロボットコンテスト高専大会は今回で21回目。11月23日，両国国技館で全国大会が開催された。今大会は初の二足歩行に挑戦。大会の模様は年末特集で放送した。また，第７回を迎えたABUアジア・太平洋ロボコンは８月31日インド・プネで開催。中国の西安交通大学が優勝を飾った。放送では，日本のモノづくりの精神とともに大会を紹介した。

正月特集『もっと知りたいノーベル賞』では，ノーベル賞受賞者の小林誠さんと益川敏英さんを招き，涙あり笑いありの研究秘話，子育て法などを聞いた。

『ふたごの不思議に学べ！～老化予防から子育てまで』では，ふたごの違いを詳しく見ることで，老化予防，子育て，教育，病気などに遺伝や環境がどう影響するかを伝えた。

Ⅲ．教育番組

１．青少年・こども番組

青少年・こども番組は，青少年とそのファミリー層の多様な要望に応えるため，楽しみながら豊かな感性や情操を育（はぐく）むことのできるエンターテインメント性の高い教育番組を制作している。

中でもデジタル時代の公共放送サービスとして「３スクリーンズ（TV・PC・モバイル）」と連動した番組制作，開発を積極的に行っている。

ファミリー層に向けたイベントとしては，夏休みの恒例となった『天才てれびくんMAX』のNHKホール公開イベント，夏には若者向けイベント「パフォー！フェスティバル　2008」「ケータイ大喜利・夏の陣」を実施，また教育フェアのイベントも担当し，多くの家族連れや若者から好評を得た。

（１）幼児向け番組

08年度は，午前７時から新番組『シャキーン！』を新設し，それに続いて10分枠を拡充した『アニメぜんまいざむらい』を編成するなど，朝の幼児こどもゾーンのスタートの強化・充実をはかった。

また『からだであそぼ』を５分短縮して10分枠とする一方で，夕方にも「ミニアニメ」を設定するなど，いっそうバラエティーに富んだ編成となった。『ニャンちゅうワールド放送局』が土曜朝から，日曜夕方に移設された。

（２）こども番組

小学生をターゲットにした『天才てれびくんMAX』のコンセプトは「放課後のワンダーランド」。「てれび戦士」がさまざまな挑戦をするドラマやショー，トーク，視聴者参加ゲームなどをデイリーで展開し，放課後の子どもたちの熱い支持を得ている。

金曜には『天才てれびくんMAX・ビットワールド』を放送。少年少女が楽しめる双方向視聴者参加型番組のパイオニアとして子どもたちが生放送と連動したネットゲームにPCで参加できるシステムを開発。その臨場感が大反響を呼び１日のホームページアクセスが700万件という新記録を作った。

また，世の中のホットなニュースを真正面から取り上げ、子どもたちにわかりやすく伝える『週刊こどもニュース』は15年目を迎え，大人にもわかりやすいユニークなニュース番組として幅広い視聴者の支持を得ている。『みんなのうた』では，「NHK全国学校音楽コンクール」と連動したアンジェラ・アキ「手紙～拝啓　十五の君へ」，ジェロの「晴れ舞台」など話題作，ヒット作を生み出した。

（３）若者番組

NHK初の動画投稿・視聴者参加番組『テレ遊び　パフォー！』では若者たちがダンスや音楽などのパフォーマンス映像を携帯電話やパソコンで番組ホームページに動画投稿し，それを有名アーティストがブラッシュアップし，番組で発表するという新しいスタイルの若者向け放送サービスを確立。投稿されたデザインを基に本格的「短編怪獣映画」を完成させ，話題となるなど，若者たちの才能を開花させる新しいメディア環境を構築した。

『一期一会　キミにききたい！』は価値観の異なる若者２人の出会いをプロデュースするドキュメンタリー。現代に生きる若者たちがお互いの悩みや主張をぶつけ合い，語り合うことで成長していく姿を追い，リアルな若者像を描いた。

また『トップランナー』は映画，音楽，文学，アート，スポーツなどさまざまなジャンルの第一線で活躍する〈トップランナー〉を毎週１人（組）スタジオに招き，さまざまなパフォーマンスとともに，その魅力や本音，創造の秘密に迫るカルチャートーク番組。08年度は，新キャスター，総合テレビでの放送となり，時代の最先端の息吹を伝えるキャスティングが話題を呼んだ。

（４）特集番組

『ETV50～青春集合！アラハタのすべて』では，20歳前後（アラウンド・ハタチ）の若者たち1,000人をスタジオと結び，彼らのリアルな考え方に迫った。年始特集『新春TV放談』は，NHKで活躍する最先端のTV人間が大集結，民放も含めて，TVの現状に鋭く迫るトークが話題を呼んだ。

『NHKスペシャル～私はこうして“世界一”の美女をつくる』は，ミス・ユニバース・コンテストに参加する各国代表の舞台裏を追い，究極の美を競う女性たちがいかに心身を磨き上げるのか，女性層にアピールする『NHKスペシャル』として好評を得た。また，話題のドラマ『フルスイング』と連動したドキュメンタリー版『もう１つのフルスイング』では，主人公の感動のドラマを証言などでリアルに検証，ドラマを盛り上げる相乗効果を生み出した。

夏期特集『家族で楽しむ　クイZOOランド』は，全国の動物園の知られざる舞台裏を，クイズ形式で紹介。夏休みにふさわしい，動物エンターテインメントとして，ファミリー層に好評を得た。

２．学校教育番組

全国の公立小・中学校の教室をブロードバンドにつないでICT活用を図るなど，教育の情報化が進められる中，学力の向上に資する学校放送番組の刷新・充実に取り組んだ。また，2011年の地上デジタル放送完全実施を視野に置き，番組のハイビジョン化を進めた。01年度から着手したインターネットによる「NHKデジタル教材」の開発・提供を更に進め，22番組（小学校向け14，中学・高等学校向け８）と理科・社会科を中心とした約3,000本の動画クリップを提供した。

（１）定時番組

08年度は42番組（小学校向け30，中学・高等学校向け10，保護者・教師向け２）を放送した。

小学校向けに新設したのは，映像を通して各時

代をわかりやすく理解できるよう，ドラマやCG，クイズなども盛り込んだ『見える歴史』，達人の知恵を借りながらコミュニケーション能力を楽しく学べる『伝える極意』。さらに学校だけでなく，家庭でも楽しみながら視聴できる番組として，音楽・図工・体育を中心とした情操教育の面白さや奥深さを紹介する『ヒミツのちからんど』を新設した。

保護者向けとしては，小学生を持つ保護者を対象に，子育てを支援する『土よう親じかん』を新設した。

（２）特集番組

NHK全国学校音楽コンクール関連のドキュメンタリー特集『拝啓　十五の君へ』などを５月，９月，３月に放送し，10月に行われる全国大会との多面的な展開を図った。中学校の課題曲は大ヒットして認知度が上がり，全体の参加校が07年に比べ約100校多い約2,500校となった。

NHK教育フェアの期間中に特集番組を集中的に放送。日本賞関連では，デジタル技術の進歩が新しい学びを生み出している現状をコンテスト応募作品と織り交ぜて描いた『Education　2.0』，放送教育研究会全国大会に関連した『メディアでひらく教育新時代』などを放送した。

そのほかに，教育テレビ50周年企画として『こどものきもち24じ』，定時番組を特集展開した『土よう親じかんスペシャル』や『あしたをつかめスペシャル』などを放送した。

（３）教育イベント関連

①「NHK教育フェア2008」（10月22日～11月３日）では，教育番組の魅力を余すことなく紹介する展示や関連番組で，公共放送が「教育」に果たす役割をわかりやすく紹介した。また，会期中，「日本賞　教育コンテンツ国際コンクール」の受賞作品の発表と授賞式も行われた。

②「第59回放送教育研究会全国大会」（10月24日～25日）は，東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた。2011年の地上デジタル完全実施に向け，学校放送現場でどのように番組を視聴・活用していくかなどについて活発な議論が展開された。

③「第75回NHK全国学校音楽コンクール」には，小・中・高合わせて2,463校が参加。NHKホールで行われた「全国コンクール」（10月11日～13日）は，小学校，中学校，高校の部を生放送した。また，審査の時間を利用して参加校の代表がいっしょにハーモニーを築き上げるスペシャルステージも行った。

④「第55回NHK杯全国高校放送コンテスト」には地方予選を含め，全部門合わせて1,526校が参加した。

⑤「第25回NHK杯全国中学放送コンテスト」には地方予選を含め，全部門合わせて632校が参加した。

（４）学校放送関連委員会

①学校放送番組委員会

番組の企画・制作に当たって利用現場の意向や要望を反映させ，より豊かな学校放送番組にするために開催するもの。番組を利用している教師，文部科学省，大学の研究者や専門家などで構成され，年２回程度開催する。

②教育放送企画検討会議（ブロック）

全国を８つのブロックに分け，放送を利用している教師，学識経験者などで構成され，09年度の学校放送番組の編成や制作の考え方について，意見を交換する。

③教育放送企画検討全体会議

各ブロックからの意見を集約し，具体的な番組計画を立案した上，09年度の学校放送の制作方針および学校放送のあり方等を検討する会議。文部科学省，学識経験者，全国放送教育研究会連盟（教師による放送教育研究団体）の代表者などで構成され，例年12月に開催される。

３．趣味・実用番組

（１）定時番組

平日を中心に暮らしのさまざまな知恵とノウハウを紹介する番組を並べた。

月～木曜の午前11時台は，家庭料理のノウハウを伝える『きょうの料理』と，初心者や若い人に向けた基本のツボをやさしくおさえる『きょうの料理ビギナーズ』，手芸や工芸など手作りの楽しさを伝える『おしゃれ工房』，さらに５分ワンポイントのお得情報を紹介する『まる得マガジン』を放送。また夜10時台には，主に中高年の趣味の世界を広げてもらう『趣味悠々』を放送した。

金曜の夜９時台には，住宅のさまざまなトラブルを自分の手で解決しようという『住まい自分流』と，野菜作りの楽しさを伝える『趣味の園芸やさいの時間』を放送した。

日曜には，園芸ファンに向けての『趣味の園芸』を放送。また園芸の初心者向けに『趣味の園芸ビギナーズ』を放送した。囲碁将棋ファン向けには，毎週日曜の昼を挟んだ時間帯に放送する『将棋の時間』『囲碁の時間』のほかに，BS2で『囲碁・将棋ジャーナル』やタイトル戦中継など，

多彩な形式で放送している。

（2）特集番組

囲碁将棋ファンに向けて，『決定！こども囲碁名人』『決定！こども将棋名人』『全日本アマチュア将棋名人戦』『将棋界の一番長い日』『将棋の日』『テレビ囲碁アジア選手権』『新春お好み将棋・囲碁対局』などの特集番組を放送した。また，8月には趣味実用番組特集ウイークを実施。『きょうの料理』『おしゃれ工房』『きょうの料理ビギナーズ』『趣味の園芸』の特集を月～木曜連続で1時間の拡大枠を組んだほか，11月には『きょうの料理　クッキングコンテスト2008』を放送。また，教育テレビ50年を記念して，1月に『教育テレビが見つめた　くらしまるごと半世紀』を放送した。

4．外国語講座番組

（1）定時番組

教育テレビでは，18番組，ラジオ第2放送では25番組と，合計43の定時番組を制作放送した。

①教育テレビ

英会話番組では，4つの新番組を制作。『リトル・チャロ～カラダにしみこむ英会話』は，クロスメディア企画の中のテレビ講座。子犬の大冒険を描いたアニメ『リトル・チャロ』を中心に据え，テレビ，ラジオ，Web，テキスト，携帯，CDと，さまざまなメディアを組み合わせて学習できるもの。学齢期の子どもたちからシニア層まで幅広い支持を得た。『英語が伝わる！100のツボ』は，実践的なフレーズにフォーカスし，英語を学び直したい人たちに強くアプローチできた。また，3か月ごとにテーマを決め目的別の講座として定着した『3か月トピック英会話』では，赤毛のアンをテーマにしたシリーズが人気。赤毛のアンが世に出されて100周年を迎えることから，アンの大ファンである松坂慶子さんをゲストにカナダロケを交え，名作から，今でも使えるフレーズを学んだ。独・仏・中・西・伊・ハングル・アラビアの7言語の番組では，従来の『○○（語）会話』から『テレビで○○語（講座）』へとタイトルを改め，映像メディアならではの内容のブラッシュアップを図った。語学学習部分もさることながら，文化情報を充実させた。北京オリンピックをコトバで応援（中国語），話題の韓国ドラマ『太王四神記』や発音クリニック（ハングル講座），ガチンコレッスン・優秀者はキューバで研修旅行（スペイン語），ヴェネツィアの地元情報満載の紀行番組（イタリア語），北フランスでの男女カップルの生きた会話（フランス語），ロマンティック街道自転車の旅（ドイツ語），カタールやモロッコの情報が満載（アラビア語）など，実践的な会話に役立つ，楽しいラインナップを提供することができた。

②ラジオ第2

『チャロの英語実力講座』は，前述のテレビ講座と並んで，特にリスニングに力を入れ，多くのネイティブ表現を学べる番組として，人気を得た。7言語系の番組では，タイトルを『まいにち○○語』に改め，従来の20分×週6回から，15分×週5回に凝縮した。より親しみのあるテーマを通して，学習を継続できる講座を実現させた。また，過去の講座をもう一度体感したいという声に応えた『アンコール○○（語）講座』では，半期にまとめたテキストも好評で，多くの人たちが秀作を楽しんだ。さらに，インターネットによる音声ストリーミングは，昨年度の1講座から，3講座に増えた。自由な時間に聴取できるとして，ラジオ講座の新しい学習スタイルが定着し始めている。

（2）特集番組

年4回，クロスメディア企画の一環で，『リトル・チャロ』をもとにした英語実力テストを携帯とテレビとを連動させた特別番組を制作した。延べ9万人以上が参加し，生放送にもかかわらず，再放送希望が出るほどの好評を博した。7月には，中国語，ハングル，そしてこのチャロの実力テストと，3夜連続で語学関連の特別番組を放送した。第1夜は『加油！北京オリンピック　体あたり中国語』と題し，『テレビで中国語』のゲストでもある小池栄子さんが北京を訪ね，そのロケをもとにクイズを楽しんでもらう番組を放送。北京の今，中国語学習のコツ，そしてオリンピックを支える中国の知恵などが紹介された。第2夜の『きわめる！“韓流”～ドラマ徹底解剖』では，これまでメディアで紹介された韓国ドラマを分析した。ドラマを通して，言葉から見る韓国の国民性，人間関係から見る韓国の精神性，文化から見る韓国の神髄，そして躍動する韓国の今を映し出した。ことばや文化の背景をより深く掘り下げることで，韓国をより身近にし，理解をいっそう深める番組となった。第3夜は，前述のチャロの実力テストを生放送した。

このほかにも，11月には，基礎英語シリーズへのさらなる理解を目指した『英語で挑戦！手づくり英会話～創作スキット・コント大会』を開催した。全国から1,000通を超える作品の応募があり，当日は講座ごとに，優秀作品の披露や最優秀賞な

どの発表が行われた。大会の模様は，年末にラジオ第２放送で紹介。ラジオ講座から発展した双方向型番組として注目され，09年度も第２弾を開催・放送することが決まった。

５．文化・福祉番組

文化・福祉番組部では，教養・生涯学習への多様な要望に応える文化番組，または子ども・障害・高齢者などに関する福祉番組など，多彩で高品質な番組を制作した。

08年度は，定時番組のいっそうの充実を図るとともに，『NHKスペシャル』などの特集番組も多数制作した。さらに，開発番組として『福祉の未来を考える　ハートネットTV』『地頭クイズソクラテスの人事』なども制作した。

（１）定時番組

総合テレビでは『探検ロマン世界遺産』『英語でしゃべらナイト』『爆笑問題のニッポンの教養』，教育テレビでは『知るを楽しむ』『ETV特集』『こころの時代』『福祉ネットワーク』『ハートをつなごう』『ETVワイド』『NHKみんなの手話』『ろうを生きる　難聴を生きる』，ラジオ第２では『宗教の時間』『視覚障害者のみなさんへ』『社会福祉セミナー』といった多岐にわたる定時番組を制作した。

４年目を迎えた『探検ロマン世界遺産』は，ユネスコに登録された850件以上の世界遺産を訪ね，その背後にある謎や歴史のドラマに迫る壮大な紀行番組。08年度は，ほとんど知られていない世界遺産も数多く取り上げた。また，特集として「フィレンツェからの招待状」「ユーミン×アンダルシア」を制作した。

03年度から始まった『英語でしゃべらナイト』は新感覚語学バラエティーとして若い世代を中心に幅広い支持を得ている。08年は，パックンの故郷アメリカのコロラドを訪ねる２回シリーズや，アメリカ・オバマ新大統領の就任演説を取り上げた回が好評を博した。また，08年度で放送が終わるため（09年度は期間編成），新番組開発として「TOKYO　NEWS　リミックス」を制作，最終回は75分の拡大スペシャルを制作した。

２年目を迎えた『爆笑問題のニッポンの教養』は，人気漫才師・爆笑問題の２人が世界的レベルの学者たちの研究室や実験室を訪ね，研究の本質や学者の思想に迫るトークを展開する。08年も，各分野の学者が登場，特集として「早稲田大学スペシャル」「成人の日スペシャル～“大人になる”ということ」「ニッポン！チャチャチャ」も制作した。

『知るを楽しむ』は４年目を迎え，さまざまな知的好奇心に応える肩のこらない教養番組として定着している。「漱石・悩む力」（私のこだわり人物伝），「活動屋の100年」（歴史に好奇心）はマルチユースで『ETV特集』でも放送され，源氏物語一千年紀として「瀬戸内寂聴が語る源氏物語の男君たち」（この人この世界）は11月や年始に連続で再放送された。

『ETV特集』は，現代のさまざまな事象を文化，歴史，社会的弱者の視点で深く読み解くETVならではのスペシャル番組。08年度は，加藤周一，吉本隆明などの戦後日本を代表する文化人を取り上げたほか，「アンジェイ・ワイダ」「BC級戦犯」，多摩川河川敷に住むホームレスと猫を描いた「ひとりと一匹たち」などが大きな反響をえた。

『こころの時代』は82年から始まった長寿番組。宗教が示す指針や逆境を乗り越えた人々の言葉から人間の心を見つめ直す。年間シリーズとして「道元のことば～正法眼蔵随聞記にきく」を放送した。

福祉番組では，『福祉ネットワーク』が，年間３万人以上に上る「自殺」，「日本のセーフティネット」「認知症」「介護保険」「障害者自立支援法」について取り組み，また，ETV50年の新たなキャンペーンとして「こどもサポートネット」を展開。虐待や貧困などに苦しむ子どもたちの現状を取材し，「NHK福祉ポータル　ハートネット」や携帯サイトでも幅広く声を集めた。『ハートをつなごう』では，LGBT（レズ・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）や依存症，こども虐待の当事者が出演。今までタブーとされてきたトークを繰り広げ，『ETVワイド』とも連動して大きな反響を得た。

また，北京パラリンピックが開催された08年，『福祉ネットワーク』では「パラリンピックへの挑戦」のシリーズを編成した。

（２）特集番組

歴史，教養，福祉など多岐にわたるジャンルで，特集番組を制作した。

『NHKスペシャル』は福祉番組の取材を発展させた「セーフティーネット・クライシス」「借金地獄から救いだせ～自治体vs闇金融」「さまよえるがん患者」を制作。ほかにも「源氏物語　黄金絵巻の謎」「引き揚げはこうして実現した～旧満州・葫蘆島への道」などプロジェクト参加も含めて８本制作。また，総合テレビの特集として

「北京パラリンピック　果てしなき可能性への挑戦」,『ハイビジョン特集』と連動した「夕張・年老いた町で」，ETV50関連として，総合テレビの特集とETVの３時間生放送「子どもサポートネット　親と子の現場から」，爆笑問題を司会に「教育テレビの逆襲～よみがえる巨匠のコトバ」を制作した。また，開発番組特集として『福祉の未来を考える　ハートネットTV』『夏休み特別まったり談“傑作のススメ”』（教育），『地頭クイズ　ソクラテスの人事』（総合）などを制作，ソクラテスは09年の夜10時台の番組となる。

Ⅳ．芸能番組

１．ドラマ番組

地上波デジタル放送が本格化し，家庭用受像機の高品位化，大画面化，高音質化時代を迎え，テレビソフトにおけるドラマへの期待がますます高まっている。また，08年12月から本格運用が始まったNHKオンデマンドにおいても，ドラマの重要性が改めて認識されている。

00年大河ドラマ『葵　徳川三代』の全編ハイビジョン化以降，08年大河ドラマ『篤姫』まで大河ドラマにおけるデジタル・ハイビジョン化を推進し，その特長を生かしたソフトを視聴者に提供してデジタル普及に努めている。また，連続テレビ小説においても02年前期『さくら』以降すべてハイビジョン制作を行っており，2011年の完全地上デジタル放送化に向けた準備を進めている。

内容的にも，ドラマ番組は，連続ドラマ，単発，シリーズドラマとも，それぞれ放送内容を多様化し，より特長を生かし，ターゲットを明確にした，クオリティーの高い番組群を構成している。とりわけ，骨太な作品を創出することを目指し06年１月からスタートした『土曜ドラマ』は，「ハゲタカ」「フルスイング」「監査法人」など現代社会を鋭く描いた作品を発表し,視聴者から好評を得た。

NHKの喫緊の課題である視聴者層の拡大においてドラマの果たす役割の重要性が認識され，08年４月からの番組改定において，木曜夜８時を，『木曜時代劇』から，ティーンと30，40代の親子をターゲットにした現代劇の『ドラマ８』に模様替えし，時代劇を土曜に移行するという改革に着手した。

21世紀スペシャルドラマである司馬遼太郎原作の『坂の上の雲』（全13本）は，09年から11年にかけての放送に向けて,順調に収録を進めている。

（１）連続ドラマ

国民的支持を得，受信料体制を支える良質な連続ドラマ。

①大河ドラマ

63年『花の生涯』から始まった大河ドラマは，08年の『篤姫』で第47作目となり，日曜夜８時の時代劇として視聴者に定着している。

『篤姫』は，江戸城大奥の総帥として，江戸城無血開城にも貢献した天璋院篤姫の波乱万丈の人生を描き出す豪華絢爛な歴史絵巻。原作・宮尾登美子，脚本・田渕久美子。主演・宮﨑あおい。

なお，09年は，火坂雅志原作による『天地人』，10年は『龍馬伝』，いずれもデジタルハイビジョンの特性を生かした高品質の映像と音声で華麗で迫力ある大河ドラマとして放送する。

②『連続テレビ小説』

こちらも「朝ドラ」として定着し，08年前期の「瞳」で78作目となる。作・鈴木聡。主演・榮倉奈々。舞台は，東京都中央区佃・月島界隈。札幌でダンサーを目指していたヒロイン瞳が，祖母の死を契機に上京。里子を預かり「養育家庭」をしている祖父との生活に飛び込む。人情の厚い下町で，家族の絆の再生を描いていく，ハートウオーミングなドラマ。

08年度後期は大阪局制作『だんだん』。作・森脇京子。主演・三倉茉奈・三倉佳奈。島根県松江市と京都・祇園が舞台。生まれてすぐに離れ離れになった双子の姉妹が，数奇な運命を辿(たど)り，互いに絆を深め合っていく物語。デュエット歌手として活躍し，やがてそれぞれの道へと旅立つ２人の波乱万丈の人生を，周囲の人々の葛藤(かっとう)を絡めながら，叙情豊かに描く。

③『土曜時代劇』

日本人の心の原点を描き，時代劇ファンから長く愛されている人気シリーズを，08年度から，30分の『土曜時代劇』としてリニューアル。フレッシュな若手俳優を主役として起用し，青春活劇の要素を取り込んでいる。08年度は３シリーズをNEPと大阪局で制作。

08年度，第１シリーズは「オトコマエ！」井川香四郎原作，福士誠治主演（連続13回）。第２シリーズは「陽炎の辻２～居眠り磐音　江戸双紙」佐伯泰英原作，山本耕史主演（連続12回）。第３シリーズは大阪局制作「浪花の華」築山桂原作，窪田正孝主演（連続９回）。

（２）単発・ミニシリーズ

個性的で，現代性に富んだドラマ。

①『土曜ドラマ』

06年1月に新設された1時間のドラマ枠。この名称は，75年から始まったシリーズドラマに冠されたもので，「男たちの旅路シリーズ」「松本清張シリーズ」など数々の名作を生み出してきた枠。“日本を描く骨太な土曜ドラマ”を標榜(ひょうぼう)し，多くのドラマファンや，これまでドラマに興味なかった人をも取り込もうとする意欲に満ちた作品を送り出していく。

08年度第1シリーズは，山本むつみ作「トップセールス」（連続8回）。車のセールスの世界に飛び込み，さまざまな困難を乗り越えて，外車販売会社の社長に駆け上がった女性の一代記。夏川結衣主演。

第2シリーズは，名古屋局制作，矢島正雄，小林雄次作「監査法人」（連続6回）。監査業務を負う会計士の活躍や葛藤(かっとう)を通して，息詰まる企業監査の現場，粉飾決算の裏側を描くオリジナル経済ドラマ。塚本高史主演。

第3シリーズは，福田靖作「上海タイフーン」（連続6回）。日本で行き場を失った若い女性が，経済発展目覚ましい中国・上海に渡り，文化や習慣の違いを乗り越えて起業に成功。幸せをつかむまでのたくましい奮闘を描いたオリジナルドラマ。木村多江主演。

第4シリーズは，大阪局制作，中園健司，飯野陽子作，「ジャッジⅡ～島の裁判官奮闘記」（連続5回）。大阪から南の島にたった一人の裁判官として赴任した主人公。民事から刑事まで島で起きるあらゆる事件に携わりながら成長していく若き裁判官の姿を描く人気シリーズの第2弾。2年目の任期を迎えた主人公が，数々の難題を解決し，万感の思いを胸に島を去るまでを描く。西島秀俊主演。

②『特集ドラマ』

正月時代劇などを含め，エンターテインメント性豊かな見応えのある個性派ドラマ群として，デジタル・ハイビジョン普及のキラーコンテンツを並べた。

『SAVE THE FUTURE プロローグ』ドラマ「僕の島／彼女のサンゴ」（全1回）

NHKが全局的に取り組む環境キャンペーンの一環として，沖縄のサンゴ礁を舞台にしたドラマを制作。海水温の上昇のために白化していくサンゴを再生させようとする若者の取り組みを，都会から来た若い女性とのラブストーリーの中に描き，若い世代が環境問題に関心を持つことを願ったドラマ。秦建日子作。美波，田中圭主演。

『広島発特集ドラマ～帽子』（全1回）

広島の港町・呉に暮らす，老いた帽子職人が主人公。胎内被曝という重い荷物を抱える幼馴染(なじみ)の女性が，ガンの末期であることを知り，その女性に40年ぶりに会うために上京する物語。広島局開局80周年記念の，深い感動を呼ぶ本格ヒューマンドラマ。池端俊策作。緒形拳，田中裕子出演。広島局制作。

「敬老の日」スペシャルドラマ

『ディロン～運命の犬ふたたび』（全1回）

06年土曜ドラマで放送した『ディロン～運命の犬』のスペシャル版。セラピー犬を引退したディロンと，ひとりの老紳士の心温まる交流を通して，「老いる」ことに優しく目をむける。井上こみち原案。寺田敏雄作。樋口可南子主演。

『NHK仙台放送局　開局80周年記念ドラマ～お米のなみだ』（全1回）

東京の商社のコメ飼料課に勤める若いOLが，青田買いのために宮城を訪れ，地元農家との触れ合いを通して，コメ作りへの理解を深め，成長していく姿を描く。阿部美佳作。奥田恵梨華主演。仙台局制作。

『NHKスペシャル』「最後の戦犯」（全1回）

終戦のわずか5日前，お国のために1人のアメリカ兵を処刑した青年。戦争犯罪に問われた彼の3年半に及ぶ逃亡生活のドラマ。ある青年に実際に起こった話を，何百枚にも及ぶ彼の逃亡日記に基づきドラマ化した迫真のストーリー。鄭義信作。ARATA主演。スペシャル番組センター，名古屋放送局制作。

『時代劇スペシャル～母恋ひの記』（全1回）

谷崎潤一郎の名作「少将滋幹の母」が原作。華麗な平安王朝を舞台に，理不尽に引き裂かれてしまった母子が40年後に再会を果たすまでの軌跡を描く。中島丈博脚本。黒木瞳，劇団ひとり主演。

『時代劇スペシャル～花の誇り』（全1回）

藤沢周平作品には稀(まれ)な女性主人公の物語。ヒロイン田鶴の執念の殺陣(タテ)を見どころに，江戸時代の地方の武家の女の戦いと愛を強く豊かに描いてゆく。藤沢周平原作。宮村優子脚本。瀬戸朝香主演。

『正月時代劇～陽炎の辻～居眠り磐音　江戸双紙～スペシャル』（全1回）

『土曜時代劇』で好評の「陽炎の辻」のスペシャル版。剣豪磐音の活躍を，伊豆・熱海などの地方ロケをふんだんに取り入れて描く娯楽大作。佐伯泰英原作。尾西兼一脚本。山本耕史主演。

『特集ドラマ～お買い物』（全1回）

福島の農村から東京・渋谷へ「お買い物」に出

かける老夫婦の姿を，独特のユーモアと歯切れの良い会話で描き，味わい深い感動を呼ぶロードムービー。前田司郎作。久米明，渡辺美佐子主演。

『ドラマ「ガラス色の恋人」』（全１回）

日本放送作家協会主催第32回創作テレビドラマ大賞受賞作のドラマ化。沖縄を舞台に，傷ついた若い２人の出会いと再生を描く，いのちの物語。野条美由紀作。吹石一恵主演。

『ドラマスペシャル～白洲次郎』（全３回。09年３月に第２回まで放送）

近衛文麿や吉田茂の側近として，昭和史の鍵を握ると言われながら，その生涯は謎に満ちたリベラリスト，白洲次郎を描く大型特集ドラマ。第１回は，ケンブリッジ大学留学中のエピソードから，妻となる正子と出会い，戦争回避のための政治活動にのめりこむまで。第２回は，戦時中の武相荘での疎開暮らしから，終戦後，GHQとの交渉の最前線に立つまでを描く。北康利「占領を背負った男」，牧山桂子「次郎と正子」原案。大友啓史，近衛はな脚本。伊勢谷友介主演。

『NHK・RTHK共同制作ドラマ「幸福（しあわせ）のスープはいかが？」』（全２回）

フリーター生活に嫌気が差し，香港に渡った日本の青年と，香港の傾いた料理屋の娘の恋物語。２人は文化の違いを乗り越え，知恵を出し合い，新しい味を作り出す。NHK・RTHK（香港電台）共同制作ドラマ。陳志樺（マン・チャン）作。成宮寛貴，劉心悠（アニー・リウ）主演。

（３）ハイビジョンドラマ

ハイビジョン放送普及をも視野に入れた高品質なドラマ。（２）単発ドラマ参照。

（４）NHKアーカイブス・名作劇場

過去の名作の蓄積ソフトを有効活用（マルチユース）。

（５）オーディオドラマ

『FMシアター』『青春アドベンチャー』などの完成度の高い“音の世界”は国の内外で高い評価を得ており，数々の賞を受賞している。また，老若男女問わず熱心なリスナーたちから大きな人気を得ている。

２．エンターテインメント番組

08年度は，07年度に立ち上げた番組の定着を図るとともに，08年度以降を見据えた新番組開発にも積極的に取り組んだ。

（１）公開・派遣番組

視聴者とNHKを結び付ける役割を担う公開・派遣番組の制作は，当部の業務の中核をなしている。

08年度は，『行くよ！後輩　ほいきた！先輩』『三枝一座がやってきた！』『NHKのど自慢』『BSふるさと皆様劇場』『NHK歌謡コンサート』（４本を地方派遣），『MUSIC JAPAN』『BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』のほか，有料のチャリティーイベント『歌謡チャリティーコンサート』（２回）など，数多くの番組を通して視聴者と向き合った番組制作を行ってきた。また，新しい公開派遣番組として『ごきげん歌謡笑劇団』の試作を行った。

（２）定時番組

08年度は，『NHK歌謡コンサート』『MUSIC JAPAN』『SONGS』『BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『最新ヒット　ウエンズデー　J－POP』に加え『魅惑のスタンダード・ポップス』が新たに加わり，幅広い視聴者に向けた多様な音楽ソフトの提供が行えるようになった。

（３）特集番組

特集番組では，大型歌謡イベントや定時番組を発展させた特集番組を制作し，視聴者の期待に応えた。

『第59回NHK紅白歌合戦』のほか，大型歌謡イベントとしては，『第40回　思い出のメロディー』を制作した。

衛星放送では，『BSエンターテインメント』『BSまるごと大全集』『BS永遠の音楽大全集』『BSサタデーライブ』など，数多くの衛星放送ならではのソフト制作を行ってきた。

また，09年度以降を見据えた開発番組を特集番組として制作・放送した。

08年度は，総合・衛星・ラジオで100本余りの特集番組を制作・放送した。

３．音楽・伝統芸能番組

音楽・伝統芸能番組は，クラシック音楽から日本の伝統芸能，民謡，演劇，ダンスなど幅広いジャンルを中心に良質な場番組コンテンツを制作，放送している。視聴者の期待に応える第一級のコンテンツとして個別の放送波にマルチ展開している。公共放送として日本の放送文化における芸術・芸能の分野で重要な役割を担っている。

08年度の教育テレビでは，『音楽のちから』から『ヒミツのちからんど』にタイトルも一新し，バーチャルスタジオを使った新しい発想の子ども音楽番組も制作している。番組では，ゲストに招いた音楽家とのセッションを行い子どもたちが音楽を楽しむ力や音楽の本質を知る目的で制作して

いる。

（1）テレビ定時番組

08年度は，教育テレビ週末夜間の『N響アワー』『芸術劇場』のクラシック音楽ゾーン，水曜午後の『日本の伝統芸能』と木曜午後の『芸能花舞台』という伝統芸能ゾーンで，愛好家の視聴習慣に配慮した編成をとった。

『N響アワー』では，長大な楽曲の全曲放送を避け，名曲の聴きどころを親しみやすい解説を付けて紹介し，新しい音楽ファンの獲得を目指した。第5日曜は，『オーケストラの森』として，N響以外の日本全国のプロ・オーケストラを紹介し，そのコンサートの模様を放送した。『芸術劇場』は，2時間15分を「情報コーナー」「公演コーナー」の2つのブロックにより構成。クラシック音楽，古典芸能，演劇と3つの分野をカバーし，国内外の優れたステージ芸術を紹介した。

『芸能花舞台』は，古典芸能のポピュラーな演目，代表作を取り上げた。『日本の伝統芸能』は，「歌舞伎」「能・狂言」「文楽」の3シリーズを放送。わかりやすさを最大のポイントとした演出を心がけ，それぞれ新たな視聴者の開拓を果たした。

（2）公開派遣番組

総合テレビでは，『それいけ！民謡うた祭り』を，全国9か所で公開録画。地元の民謡歌手を積極的に登用し，地域に残るふるさとの民謡にこだわる演出を行い，ふるさとの香りあふれる番組とした。ラジオ第1（およびFM）の『民謡をたずねて』，FMの『ベストオブクラシック』『オーケストラの夕べ』も，引き続き実施した。

また，BS2『あなたの街で夢コンサート』を10本放送し，プロのオーケストラとの共演を夢見るアマチュア音楽家のほほえましい演奏風景を紹介した。

（3）ミニ番組

四半世紀の歴史を持つ傑作シリーズ『名曲アルバム』は，ハイビジョン一体化制作を推進し，地上波とハイビジョンとのマルチユース蓄積ソフトとして放送した。また，08年からはハイビジョンで初の中南米編を制作し，日本国内編も地方局の参加を求め，より広範囲に進めた。

『みんなの童謡』は，日本人の琴線に触れる懐かしい歌を紹介した。

また，学校教育に邦楽が正式に取り入れられたのを機会に，和楽器を中心に日本の伝統芸能をわかりやすく魅力的に紹介する『いろはに邦楽』を年度末まで放送。教育関係者からも大きな反響を得た。

（4）テレビ特集番組

毎年秋の恒例となった『NHK音楽祭』は第6回目を迎え，「魅惑のバイオリン　魂のコンチェルト」をテーマに開催された。NHKホールで行われるこのイベントに，今回はジャナンドレア・ノセダ指揮／NHK交響楽団，ユーリ・テミルカノフ指揮／サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団，マリス・ヤンソンス指揮／ロイヤル・コンセルトヘボー管弦楽団，ウラディーミル・アシュケナージ指揮／フィルハーモニア管弦楽団が参加。それぞれ，サラ・チャン，庄司紗矢香，ジュリアン・ラクリン，諏訪内晶子ら現代を代表するバイオリニストをソリストに迎え，バイオリン協奏曲の名演を披露した。それぞれのプログラムはFM生放送をはじめ，衛星ハイビジョン，衛星第2，教育の各波で紹介し，高い評価を得た。

『NHK古典芸能鑑賞会』は，わが国の伝統芸能の各ジャンルを代表する演目を一堂に集め，当代一流の演者による上演を鑑賞するという，NHKならではの企画として定着している番組である。35回目を迎えた08年は，人間国宝の坂田藤十郎による歌舞伎「河庄」のほか，人間国宝の西川扇藏ほかの出演による舞踊，同じく人間国宝で文化勲章も受章した茂山千作ほかによる狂言，そして砂崎知子ほか実力派が顔をそろえた箏曲など，充実した内容をお送りした。

正月2日に恒例となった『こいつぁ春から』では歌舞伎座の改築が発表されたことに因(ちな)み，当日歌舞伎座で催された特別な儀式「古式顔寄手打式」の模様や，アーカイブスに残る歌舞伎座での名舞台の映像，そして歌舞伎俳優の生インタビューなども織り交ぜ，情報性豊かに華やかな初芝居の雰囲気を醸し出した。

「スーパーレッスン」は，世界第一級のアーティストが若い学生たちに特別なレッスンを授けるテキスト番組。08年度は，『スーパーピアノレッスン』としてマリア・ジョアン・ピレシュの「巨匠ピレシュのワークショップ」，アンドラーシュ・シフの「シフと挑むベートーベンの協奏曲」の合わせて2シリーズを新たに制作し，放送した。

正月3日恒例の『NHKニューイヤー・オペラコンサート』は，第52回を迎えた。「幻想と熱情の名アリア，名場面」と題して構成し，海外で活躍する一級の日本人歌手たちの歌とともに，幕間ではジャズ・シンガーとピアニストによるガーシュウィンのナンバーを紹介するなど，盛りだくさんの2時間生放送となった。また，08年からNOD見逃しサービスも導入し，好評を博した。

元日恒例の『ウィーン・フィル　ニューイヤー・コンサート』では，今回は指揮者にニューイヤーコンサート初登場となるダニエル・バレンボイムを迎え，ハイビジョン・5.1サラウンドの高画質・高音質でオーストリア・ウィーンからの生中継を行った。東京のNHKスタジオには古美術鑑定家でクラシック音楽ファンの中島誠之助，ウィーン国立歌劇場専属歌手として活躍するバリトン歌手の甲斐栄次郎の各氏を招き，森田美由紀アナウンサーの司会で番組を進行。コンサート生中継の前後に，バレンボイムの活動を紹介するコーナーやウィーン・フィルの楽器の秘密を探るコーナーなどを設け，バラエティー豊かに番組を演出した。

09年１月10日～２月22日，「NHKみんなの広場ふれあいホール」で「NHKシアター・コレクション'09」を開催した。過去１年間に上演された演劇作品の中から評価の高い秀作を再演してもらい，テレビ収録し，多くの方々に紹介しようというもの。２回目となる今回は，モダンスイマーズ「夜光ホテル～スイートルームバージョン」，イキウメ「イキウメ短篇集」，劇団昴「親の顔が見たい」ミクニヤナイハラプロジェクト「青ノ鳥」の４団体４演目を上演。いずれの公演も熱心な演劇・ダンスファンが会場に詰めかけ，好評のうちに幕を閉じた。

（５）FM特集番組

音楽波NHK-FMの特性を生かしたオール・ジャンルの超長時間特集番組『今日は一日○○三昧』は，ある１つの音楽ジャンルに絞って一日中そのファンに堪能してもらうことを目的に，クラシックからカントリー，ソウル，民謡までを網羅し，日ごろからの音楽・伝統芸能番組の守備範囲の幅広さに支えられたFMの目玉企画となった。テーマは，「ラ・フォル・ジュルネ」「ミュージカル」「鉄道」「アジア音楽」など。

特集番組では，前述の『今日は一日“○○”三昧』に加え，夏の『ベストオブクラシック～特集ヨーロッパ夏の音楽祭』や，年末の『バイロイト音楽祭』なども例年どおり放送し，クラシックファンの期待に応えた。

（６）国際共同制作の推進

世界各地の音楽祭やオペラハウスでの公演を，各国の放送局・プロダクションとの共同制作により収録し放送した。水準の高いソフトを低コストで効率的に紹介した。08年度はパリ・オペラ座，スカラ座，ロイヤル・オペラハウスなど世界の一流歌劇場でのオペラ公演，モンテカルロ・バレエ，ロイヤル・バレエ，マリインスキー・バレエなどのバレエの舞台，そしてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団，クリーブランド管弦楽団，ゲヴァントハウス管弦楽団といったオーケストラのコンサートなど，合計17本の国際共同制作を行った。また，国際共同制作のほか，外来オーケストラの日本ツアーなど，NHK独自によるコンサートの収録，海外の著名プロダクションによる秀作ソフトの番組購入なども積極的に推進し，マルチユースを展開した。大型のクラシックソフトを安価で安定的に入手し，効果的に編成・放送した。